

平成 24 年 11 月 8 日

環境と共生する社会に向けて

提言『住まい・まち・暮らしの環境共生』を公表

- 安全で豊かな生活を支え、「心のよりどころ」となる住まい・まちづくりを提案
- 自然、文化、風土などの周辺環境や地域資源を活かし、これらと調和する重点的な取り組みを示す

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会（会長：竹中宣雄）は、ポスト 3.11 時代に求められる住まい・まちづくりのあり様をとりまとめた提言『住まい・まち・暮らしの環境共生』を公表いたします。

環境共生住宅推進協議会（以下、kkj）は、1990 年の研究会創設以来、「地球環境の保全」「周辺環境との親和」「居住環境の健康・快適性」を総合的に実現する住まい・まち・暮らしを普及するための取り組みを積極的に進めてまいりました。

この間、地球温暖化対策が国内外の優先課題となり、暮らしにおける「省エネ」「低炭素化」が、近年強く意識されるようになりました。そして 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、災害への強い安全性と省エネ・低炭素化が両立する住まい・まちづくり、人々の絆を育む暮らしのあり方等が切実な課題として顕在化しました。

kkj は、こうした課題を克服し、環境と共生する社会を実現するには、人々が心地よさを感じそれが心の満足感につながり、さらに心のよりどころとなる住まい・まちづくりを行うことが不可欠と考えます。

この実現に向け、kkj はこれまでの経験と蓄積をふまえ、環境と共生する社会における住まい・まちづくりのあり方と 4 つの重点的取り組みを『住まい・まち・暮らしの環境共生』としてとりまとめ、ここに提言します。

■提言『住まい・まち・暮らしの環境共生』

□提言

環境と共生する社会に向け、安全で豊かな生活を支え、人々の交流を促し、「心のよりどころ」となる住まいと周辺環境を形成することが必要である。

これからの住まい・まちづくりにおいては、自然、風土、文化などの周辺環境や地域資源を活かし、これらと調和する暮らしを実現する環境共生の取り組みを推進すべきである。

□解説

1. 環境と共生する社会の住まい・まち・暮らし

- 設備機器等に依存した従来型の室内環境づくり
- 周辺環境を活かした環境共生型の居住環境づくり

2. 「提言」がめざす環境共生の重点的な取り組み

- ①住まいの立地環境を読み解き整えます
- ②周辺環境や地域資源を活かして住まいをつくります
- ③低環境負荷型の設備・技術を組み入れます
- ④取り組みを統合的にマネジメントします



提言 「住まい・まち・暮らしの環境共生」

2012年11月

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会

環境共生住宅は、「地球環境の保全」「周辺環境との調和」「居住環境の健康・快適性」を統合的に実現する住まい・まちづくりを目指し、1992年に産官学共同の環境共生住宅研究会によって提唱されました。その後、環境共生住宅推進協議会を経て1997年に発足した環境共生住宅推進協議会は、「環境共生住宅宣言」を1997年11月に発表し、以来その普及・推進に取り組んできました。

その際、地球温暖化対策が国内外の優先課題となり、暮らしにおける「省エネ」「低炭素化」が近年強く意識されるようになりました。そして、2011年3月11日の東日本大震災を契機に、災害に強い安全性と省エネ・低炭素化が両立する住まい・まちづくり、そして人々の絆を育む暮らしのあり方等が切実な課題として顕在化しました。

環境共生住宅推進協議会は、これらの新たな社会的課題に対応するため、「住まい・まち・暮らしの環境共生」をここに提言します。

提言

環境と共生する社会に向け、安全で豊かな生活を支え、人々の交流を促し、「心のよりどころ」となる住まいと周辺環境を形成することが必要である。

これからの住まい・まちづくりにおいては、自然、風土、文化などの周辺環境や地域資源を活かし、これらと調和する暮らしを実現する環境共生の取り組みを推進すべきである。

1. 環境と共生する社会の住まい・まち・暮らし

地球や地域の環境保全に資するエネルギー資源の利用を、地域特性に従って適切に工夫します。そして、周辺環境と調和し、安全で健康・快適な暮らしができる住まい・まちづくりを目指します。

■設備機器等に依存した従来型の室内環境づくり

住まいを取り巻く環境は、室内外ともに常に変化しています。それに対して安定した室内環境を確保するために、従来は高級エネルギーに依存する専有で手回し換気装置に頼ってきました。外からの影響を和らげ、室内の快適性を高めるためには、建物の断熱性能を高めておくことも、効果的ですが、あまりに改善するほどが取り組まずからたります。

■周辺環境を活かした環境共生型の居住環境づくり

環境共生の暮らしは、自然のリズムや四季の変化を感じ楽しむことが大切です。もとより、私たちが「心地よい」と感じる暮らしは一定ではなく、季節ともも緩やかな変化を見せます。こうした「心地よさ」は「心の満足度」につながります。そしてさらに、私たちの住む「心身のよりどころ」となるためには、自然、風土、文化などの周辺環境との調和が不可欠です。「住まい・まち・暮らしの環境共生」とはこのような視点に立った居住環境づくりを目指します。

2. 「提言」がめざす環境共生の重点的な取り組み

自然、風土、文化などの周辺環境や地域資源を活かす環境共生の取り組みによって、災害時や日々の暮らしにおける安全・安心に留意するとともに、心のよりどころとなる住まい・暮らしの実現を目指します。

- ① 住まいの立地環境を読み解き整えます**
まず、読み解いた立地環境の特徴や資源を活かす手立てを探ります。そして、まちの景観や環境（敷地内外の気候・湿度・風・日照等）を勘査、敷地の交通・利便性、季節や時間帯による変化を把握し、どのように工夫します。
- ② 周辺環境や地域資源を活かして住まいをつくります**
次に、立地環境やまちの特性に応じた建物形態や形状、配向、開口部のあり方など、住まいづくりの基本を取り組めます。その際、断熱性、耐久性、躯体・インテリア等、安全に暮らすための住宅性能を確保しながら、地域の文化や伝統にも学び、周辺環境や地域資源を活かす工夫を凝らします。
- ③ 低環境負荷型の設備・技術を組み入れます**
①、②に即した上で、外部エネルギーで稼働する設備や性能を必要に応じて組み入れ、快適な居住環境を実現します。その際、高効率な冷暖房・給湯・換気設備、太陽光発電システムなど、居住環境の向上と環境負荷の低減を両立させる設備やエネルギーの利用に留意します。
- ④ 取り組みを統合的にマネジメントします**
①、②、③の統合的な取り組みに設計・設計します。そして、BEMS (Home Energy Management System) を含む省エネ・スマート化設備を導入し、立地環境や住まいの特性にも応じた省エネ・低炭素な暮らしを実現するためのマネジメントによって、環境共生の暮らしを具体的に実現します。

11月19日(月)に提言に関する公表会を行います。

基調講演は、東京都市大学 都市生活学部 岩村和夫教授です。詳細は事務局までお問い合わせください。

以上

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会 (kkj)
会長 竹中宣雄

【この件に関するお問い合わせ先】

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会 (kkj)

事務局：岡 靖明

TEL：03-3222-6390 / FAX：03-5211-2785

E-mail：info@kkj.or.jp